





事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
 会長：藤澤健二 副会長：伊澤和男 幹事：多田浩之 公共イメージ向上委員長：三澤耕太



2020-2021 国際ロータリーのテーマ
ロータリーは機会の扉を開く

2020-2021 RI会長
 ホルガー・クナーク
 <ドイツ>



第1583回例会 令和3年6月8日(火)

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 君が代・奉仕の理想・四つのテスト 平澤理ソングリーダー



■ 会長談話 藤澤健二会長



こんにちは。上伊那の非常事態宣言はレベル5から3に、県内の他の地域でも同じく、まだまだ、油断のならない状態が続いています。伊那市の飲食店も6月5日までの時短営業を余儀なくされました。伊那市の飲食業に関しては少し前向きに考える余地があるとすれば、上伊那は農繁期でも有り県からの協力金と考えれば店の規模にもよりますが、時期的にはまだ良い時期だったのかと受け止めるしかない状況かとも思います。

また、長い間 温暖化と言われていますが、梅雨時でも晴れた日は日差しの暑さを感じています。今年の夏は猛暑日が続くそうです。昨年秋はあったのか？無かったのか？心なしか去年は特にトンボやアゲハ蝶の数さえも減少をしてきたと思えるからです。

なぜ？そう思うのかと言いますと、実は…。妻と一緒に3年ほどアゲハ蝶の飼育をしていました。闘病中の妻は自宅にいる時間も長く、生命を大切にすることは願掛けのつもり、家族の絆を大切にするため、少しばかりの環境のお手伝いのため、飼っていました。黄色味を帯びていないアゲハは「ナミアゲハ、山椒の葉に本当に小さい卵を産み付けます。黄色味を帯びているアゲハは「キアゲハ、と言ひ人參の葉やカラタチの葉に卵を産みます。アゲハ蝶は美食家で、卵を産み付けた以外の種類の葉っぱを食べることはあまりありません。また、寄生蠅、寄生蜂や鳥などから身を守るために、生まれたての幼虫は小さくとても美味しそうに見えません。ゴミの様に見える毛虫です。2週間ほどたつと青虫に変わります。青虫に変わると寄生蠅、寄生蜂や鳥などから狙われるので、家の中に向かい入れてください。もし飼うようでしたら水槽は二つ必要です。カブト虫などを飼う水槽が良いです。青虫に変わる前に水槽の中に山椒の葉のついた枝を何本か入れて飼うことをお勧めします。なお、「キアゲハ、はパセリの葉っぱも食べますが、スーパーで売っているのは農薬が多いためか死んでしまいます。また、飼っている部屋の中で殺虫剤をまくのも厳禁です。しばらくするとサナギに変わりますが、変わる前には青虫の動きが、サナギとなって落ち着ける場所「高い所、を探して、ソワソワとしてきます。もう一つの水槽に支柱になる割り箸を何本か立てて青虫を移します。羽化前になったら外に出してください。寄生蠅、寄生蜂が出てくることがあるからです。そしてアゲハ蝶になって青空に向かって飛んで行く姿を見るたびに感動します。しばらくは自宅の周りをホバーリングしていて相手を探しているのか可愛いです。帰巢本能もあるらしく秋には帰ってきます。ネットでも調べると、何人もの方が育てています参考にしてください。

さて、世界の子どもたちが必ず読んでいたと言われる「はらぺこあおむし」などを手掛けたアメリカの絵本作家「エリックカール」さんがお亡くなりになりました。日本でも累計430万部を発行。病院などの施設、保育園、小学校などでも目にする機会が多かったと思います。但し、この本の青虫はモ

ンシロチョウですが…。

嫌いな方もいらっしゃると思いますが、いかがでしょうか。家族のコミュニケーションとしてもアゲハ蝶を飼ってみてはいかがでしょうか？

今回は藤澤年度最終例会です。沢山の方の出席をお願い致します。以上、今回の談話とさせていただきます。

■ 慶 祝

6月誕生祝い

- ・倉田秀伸会員 ・網野裕美会員
- ・市川満貞会員 ・伊藤好会員
- ・鈴木一比古会員



■ 皆出席祝

- ・池上幸平会員・池田幸平会員・市川修次会員・市川満貞会員・井上修会員・太田明良会員・小川秋實会員
- ・小椋文成会員・加藤篤会員・唐澤千明会員・唐澤稔会員・熊谷健会員・肥沼光彦会員・清水吉治会員
- ・下井達典会員・杉本徳治会員・鈴木一比古会員・多田浩之会員・田中洋会員・田中真人会員・橋場正尚会員
- ・原一馬会員・平澤理会員・宮下健会員・宮原英幸会員・矢島宏会員

■ 幹事報告

多田浩之幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 理事会報告

多田浩之幹事



1. 「第28回インターアクト地区大会」について
2. 熊谷健会員 黄綬褒章受章祝賀会について
3. イーナJr.ソフトボールクラブへの活動支援について
4. 無線LAN親機等の購入について
5. 一般会計から奉仕会計への繰入について
6. 長野日報社「創刊120周年特集」協賛について
7. 6月の行事予定とメイクアップ扱いについて
8. その他

■ 助成金贈呈式

- ・イーナJr.ソフトボールクラブへの活動助成金を贈呈



- ・同クラブ保護者代表 小椋文成会員より



この度はイーナJr.ソフトボールクラブの活動への支援を決定いただきありがとうございました。これまでも小学生を中心としたチームであるい〜なちゃんソフトボールクラブへ支援をいただいております。現在伊那市を中心とした上伊那地区でのソフトボールの活動はい〜なちゃんが小学生のチームとしてあり、高校は伊那弥生ヶ丘と伊那西高校があります。しかし、中学生については上伊那に伊

那中学校と伊那東部中学校のみに限られ、中学校でソフトボールを続けようとする学区を超えて越境入学をして2校に入るか、茅野などのクラブチームへ入り活動していくことしかできませんでした。そのような状況下でソフトボールをあきらめてしまう子どもたちに何とか活動の場を準備してあげたいということで伊那西高校の寺本先生が代表になり、伊那弥生ヶ丘が全国2位になった時のメンバーである宮崎さんと伊藤さんがそれぞれ監督・コーチについていただき準備を進め、今年の3月によりやくクラブチーム「イーナJr.ソフトボールクラブ」を結成することができました。3月の時点では6名の参加でしたが今現在8名になり、秋の大会にエントリーすることができるようを目指しています。指導陣も素晴らしい方たちが就いていてくれますが、自分たちでも会費を払い、企業への協賛を求めますが、やはりスタート直後ということもあり、資金面で苦勞をしております。そのような中でのご支援で大変感謝しております。活動については折に触れご報告させていただきますので、今後ともご支援いただきますようお願いいたします。

■ 委員会報告

・6月5日（土）地区次期会員増強セミナーの報告

宮下健 次期会員増強・プログラム委員長



基調講演・分科会と13:00～16:20までとオンラインでの参加と成りました。当クラブ参加者は池上次期会長と次期会員増強委員長、私宮下でございます。

基調講演では「多様性で会員基盤を広げる」をテーマとし、東京広尾ロータリークラブの服部陽子様からお話を頂戴しました。多様性とは、異業種交流の場だけではない、年台や世代の違いを超え仲間になると云う事だそうです。そして増強には、会員自身がロータリーの説明をきちんと出来る事が重要だそうです。（ガバナーより今回はポケットサイズの冊子が配られる予定）

また、友人や知人を勧誘するという事は、ロータリー活動に自身が情熱を持っている事が重要との事です。メンバー全員が増強委員と云う意識を持って頂きたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

・6月7日（月）伊那市社会福祉協議会への「生活困窮者支援」寄付金贈呈式の報告

宮下健 奉仕プロジェクト委員長

昨日、新築された社会福祉協議会（ふれあい～な）へ出向き目録を贈呈いたしました。

当初のプロジェクト立上げの経緯は、「コロナの影響を受けた方々への支援を考える」と云う事でした。しかし奉仕理想の根底は「貧困と困窮を無くそう」という事では無いかと考え、今回の支援はSDGsの掲げる持続可能でより良い世界を目指す為のゴールとし「生活困窮者支援」という形で2030年までの継続的支援とさせて頂きました。

その影響もあって近年に無くメディアが沢山来て頂きました。昨夜はケーブルテレビでも放映されていましたが、私のインタビューは大部分カットされていました。



・インターアクト地区大会について

井上修 IA地区大会実行委員長



第2600地区からの補助金が60万円に決定しました。インターアクト生・顧問教師の皆さんからの登録料はいただかずに、提唱クラブ9,000円×10クラブと、当クラブ一人5,000円×45名の登録料で予算組みを行います。ご協力をよろしくお願い致します。

・「ロータリーの友」6月号紹介 熊谷健会員



横組み3頁、ホルガー・クナークRI会長の最後のメッセージです。コロナとの闘いの1年であったことが記されています。これを会長は「変化を機会」として捉えてきた、と語っています。直接顔を合わせられなかったこの1年は寂しいものであったけれども、世界中をバーチャルで旅して、こうならなければ出会えなかったであろう何千人もの会員と出会うことができたことと語り、右3段落目「2020-21年度の私たちが出会ったのは、機転が利き、適応性が高く、創造的なロータリーの姿でした。次の段階は、新型コロナ以前の様式に逆戻りすることではなく、オンライン例会形式を取り入れたり、新しい活動方法や機会を提供するために、（コロナ禍で）学んだことを活かして行きましょう。」と語っています。そして、左2段落目「ロータリーが、新型コロナのワクチンの公平な配布への呼びかけや、デマとの闘いなどを通じて予防接種キャンペーンを支援し、パンデミックと闘ってきたことを心から誇りに思う。」として、この間のコロナに対する取り組みを評価しています。最後に右側下から2段落目「この特別な年度、「超我の奉仕」の新たな意味を模索したこの1年に、ロータリーに奉仕する機会が得られたことに妻と共に感謝しています。ロータリーは、理念を実践する人々の集まりだと思っています。この苦難の時に、奉仕というものをこれまで以上に重視しなければならないことは明らかです。」と感謝の気持ちとロータリーの方向性を示唆する言葉を残しています。

コロナ禍で、多くの事業が実現できず、残念であったと思いますが、そのような言葉ではなく、この特別な時期に会長を務められたことを誇りに思っているという言葉が印象的でした。

7頁以下、「私たちの自然の中で」という特集が組まれています。2020年6月26日、マロー二前RI会長が「環境が新たにロータリーの重点分野に加わる」と発表したことを受けて、世界各地で行われた予定されている環境保護活動について紹介されています。「リサイクル」「ソーラーライト」「水の迂回路」「水の保全」「持続可能な農業」「エコストップ」「クリーンエネルギー」と、グローバル補助金事業が紹介されています。

16頁には、マロー二前会長のインタビューが載っています。

22頁以降「けんけんがくがく」は「新型コロナ体験 得たこと 失ったこと」を特集しています。

縦組み4頁、「悠久の庄内海岸林―クロマツと歩む私の人生」を紹介します。海岸林というと海のないうち長野県人にはピンと来ないのですが、私たちの森林涵養とはまた別の目的・方法で海岸林を守ろうと働く、梅津勘一さんという樹木医・松保護士の書かれた文章です。林を守るという意味では、わが伊那中央ロータリークラブが行っている「市民の森整備事業」にも通ずるところがあると思われ、取り上げました。庄内海岸林とは、庄内砂丘のクロマツで構成される海岸林のことを云います。庄内砂丘は山形県北西部の日本海岸にある砂丘で、面積が約7500ヘクタール、そのうち海岸林が2500ヘクタールを占め、鳥取砂丘よりもずっと広大な砂丘であると書かれています。そして、庄内海岸林は、延長・幅・面積とも日本一の規模だそうで、これが海からの強い風を遮る衝立となって、庄内平野の豊かなコメ作り・砂丘地農業・地域の人々の暮らしを守っているということです。ところが、その庄内海岸林が1970年代に、高度成長の真ただ中坂田北港開発という大規模港湾工事のため、大量に伐採されてしまいました。高校生だった筆者はその反対運動の機関紙を読み「大規模開発や環境破壊をせず、森林を守ることを仕事にしたい。」という思いを抱き、農学部林学科へ進学し庄内砂丘の海岸林について研究をするようになったと、その辺の経緯が書かれています。そして、1998年の大雪で、バタバタと松林の松が折れて道路を塞いでしまったという事件を契機に、小学生による植林作業を始めることになり、現在も多くの小学校の教育活動として行われているということです。

7頁以下は、筆者の伝えたいこととして「庄内砂丘の3つの遺産的価値」について語られています。1つは、物語性。「現代から見ると、江戸と明治、第2次世界大戦末期から戦後、この3回庄内砂丘は大きく荒廃しています。この地には、荒廃して反省してまた植林してという、破壊と再生の歴史を繰り返してきた物語性がある。」ということです。2つ目は、海岸林造成の困難性。「植林は、砂丘にまず人力で柵を建てて、風の力で毎年少しずつ砂をため、砂草を植えて固めていった砂丘を作り、安定した後で本体のクロマツを植林する。」決してブルドーザーなどの重機ではできない、手作業を行う、「砂漠の緑化活動と同じくらい困難な、奇跡の植栽」だそうです。3つ目は、海岸林の有する公益的作用。これは、7頁の下段に記載があります。そして、海岸林の生成の過程や現在の状況について書かれています。松枯れの被害についても書かれています。8頁下段「森林というものは協調性を持ち、統一した

方法を進めて行かないと守ってはいけません。具体的には、行政・教育機関・保全団体・地域住民・企業・森林組合・森林所有者等が連携して森に絡んでいくことが必要」と締めくくっています。この話を、伊那の地域に置き換えてみると、今私たちが行っている「市民の森整備作業」を多くの地域の人たちと意識を共有し、連携して推し進めていくことが必要であると感じ、また、継続していくことの重要性を感じます。

「市民の森整備作業」は今年も10月24日に予定していますので、是非、ご理解とご協力をお願い致します。

■ ニコニコボックス

- ◆藤澤健二 皆出席祝いおめでとうございます。たぶん、歴代会長で皆出席を頂けないのは私だけでしょう。お世話になりました。(笑)
- ◆多田浩之 藤澤年度も本日の例会を入れて2回となりました。本日は池田ロータリー情報委員長の卓話です。宜しくお願いします。
- ◆池田幸平 私がロータリー情報を発信します。大丈夫でしょうか!?
- ◆井上修 5月28日の1回目のワクチン接種で、今日50%の抗体が出来るそうです。2回目の6月18日の後、一週間で95%の抗体ができるとか。さあ!街へ行くぞ!!

■ 出席報告

会員数45名 出席免除会員5名 長欠会員1名 本日出席者27名 事前メイク2名
出席率76.92% 前回出席率 修正なし

■ ロータリー情報発信 池田幸平 ロータリー情報委員長



ロータリー情報委員会は、ロータリー情報を提供し、ロータリーへの理解を深めてもらうことを目的として活動することを方針として掲げました。そして新入会員にロータリーの組織、歴史、活動等が理解できる資料を提供するという計画を立てましたが、さて資料はと逡巡しているうちに時間が過ぎてしまいました。過日、関パストガバナーが製作され、皆さんにも配布されたテキストTHE

ROTARY MOTIVATIONを拝見し、これは素晴らしい、これを熟読して頂ければロータリーのことが理解できると確信しました。関パストガバナーに来訪頂き、大枠をご説明頂きましたが、今日はこの資料を基にロータリー情報を発信します。何気なくロータリーに接している方も多いと思いますが是非参考にして下さい。皆さんにとってロータリーがどのような存在であるのかについて考えて見る機会となるでしょう。

以下、関パストガバナー製作のテキストで下記のページについて紹介しますので、是非目を通してください。ロータリーが分かります!

ページ

5, 7, 8, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 18, 19, 21, 22, 28, 37, 38, 39,
40, 41, 43, 44, 47, 51, 64, 67, 68, 69, 70, 72, 79, 80, 81, 105,
113, 114, 151, 152,

■ 点 鐘

13:30

次回例会

6月22日(火) 点鐘 12:30又は18:30 場所 海老屋料理店

- ・第34年度最終例会
- ・熊谷健会員「黄綬褒章」受章祝賀会